

日本医学物理学会-日本物理学会合同シンポジウム

「物理学と医学の融合：がん放射線治療の新たな飛躍」

主催：日本医学物理学会、社団法人日本物理学会

後援：化学放射線治療科学研究会、独立行政法人放射線医学総合研究所

趣旨

理工学と医学の融合により、基礎物理学が放射線医療分野で非常に大きく貢献していることを知って貰う。

(案内文章) 開催にあたって

がんは日本人の死因第 1 位の疾患であり、私たちの健康にとって重大な脅威です。現在、がんの治療法として化学療法、外科的処置とならび放射線による治療があります。これは、種々の加速器を用いて発生させた X 線、電子線、陽子線や炭素線をがん照射して治療する方法であり、近年、さまざまな技術の発展に伴い、放射線治療装置や照射手法が急速に進歩してきました。今や、最先端技術を理解せずに放射線治療を行うことは不可能です。

医学物理士は、このような治療時に求められる放射線の的確な照射を保証するプロフェッショナルです。しかし、若手の医学物理士不足は深刻で、その問題は、国会やメディアにも取り上げられました。

理学、工学、医学、保健学等、さまざまな分野の若い力が必要とされています。多くの方々に、がん放射線治療の精度向上に貢献する医学物理士の仕事に関心をもっていただき、医学物理士を目指す若手が増えることを願い、今回のシンポジウムを開催します。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：2008年3月14日（金） 10:00 - 17:30

場所：東京大学医学部附属病院 入院棟 A

東京都文京区本郷 7 - 3 - 1

プログラム :

10:00-10:30

挨拶 :

日本物理学会副会長 二宮正夫 (京大) (15 分)

日本医学物理学会会長 金井達明 (放医研) (15 分)

10:30-12:00

基調講演 part 1 <座長 : 遠藤真広 (放医研) >

"加速器と医療" 永宮正治 (J-PARC センター長) (45 分)

"がん放射線治療と医学物理が果たす役割" 唐澤久美子 (順天堂大) (45 分)

12:00-13:00

昼食休憩 (ポスター展示開始)

13:00-14:30

基調講演 part 2 <座長 : 栗本 猛 (キャリア支援センター副センター長) >

"基礎物理から見た医学への貢献" 下浦 亨 (東大物理) (45 分)

"医学物理から見た基礎物理への期待" 西尾禎治 (国立がんセ東) (45 分)

14:30-15:10

ポスターセッションコアタイム (兼コーヒーブレイク) : 20 件程度

医学物理学研究の最先端紹介

15:10-16:00

トークコーナー「医学物理へのキャリアパス実体験」

<コーディネーター : 西尾禎治 (国立がんセ東) >

亀岡 覚 (国立がんセ東)

松浦妙子 (国立がんセ東)

芳賀昭弘 (東大病院)

切山文香 (CMS-J)

☆各 10 分程度の経歴・仕事に関する自己紹介と質疑応答

16:00-16:10

閉会挨拶:

日本物理学会キャリア支援センター長 坂東昌子 (10分)

16:10-17:30

デモ&治療施設見学 (グループ単位で)

---

A : 医療メーカーデモ : 光子線治療・粒子線治療

治療計画装置 (CMS-J、バリアン)

放射線発生装置 (エレクタ、東芝メディカル、バリアン)

放射線測定装置・QA ツール (東洋メディック、アールテック)

粒子線治療装置 (住友重機、日立製作所、三菱電機)

---

B : 病院 (放射線治療装置) 見学

---

17:30-19:00

懇親会